

長岡京跡右京第1299次 井ノ内遺跡

調査場所 京都府長岡京市井ノ内朝日寺
調査期間 令和6年8月21日～令和7年2月末予定
調査面積 3,050㎡



図5 竪穴建物1(北から)

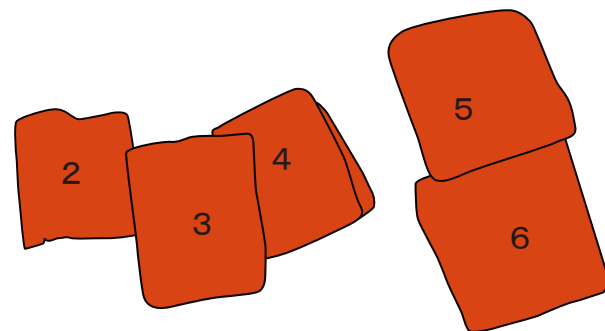


図7 竪穴建物検出状況模式図

番号	東西	南北	かまど
竪穴建物1	3m	3.2m	有
竪穴建物2	3.2m	3.2m	有
竪穴建物3	3.9m	4.2m	有
竪穴建物4	不明	3.8m	不明
竪穴建物5	3.6m	3.6m	有
竪穴建物6	4m	3.6m	無

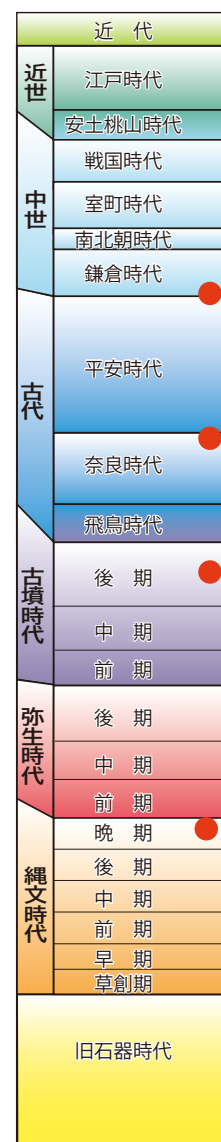
表1 竪穴建物規模一覧

400mには、全長39mの前方後円墳である井ノ内車塚古墳があります。前方後円墳はヤマト王権に許された首長が採用できる墳丘とされています。今回調査した集落は、2基の前方後円墳と同じ時代の集落であり、古墳に埋葬された首長を支えた集落の1つと考えられます。



図6 竪穴建物2・3(西から)

井ノ内地域は継体天皇の弟国宮の有力候補の1つであり、今回の古墳時代の集落は同時代に営まれたものです。調査範囲内では、宮の存在を示す遺構はありませんでしたが、弟国宮の造営前後に前方後円墳が作られ、その周辺に集落が広がることわかり、地域の歴史を明らかにする貴重な資料となりました。



弟国宮

継体12年(518)から継体20年(526)の間、継体天皇が居住していた場所とされています。弟国は和銅6年(713)に乙訓という漢字に改められました。発掘調査で弟国宮跡は発見されていませんが、郡名を名乗る乙訓寺や弟国宮と同じ時代に前方後円墳が造営される長岡京市今里、井ノ内地域が有力な地域とされています。

井ノ内車塚古墳

全長39mの古墳時代後期の前方後円墳で、横穴式石室の主体部を持っています。古墳には形象埴輪が並べられていました。

井ノ内稲荷塚古墳

全長46mの古墳時代後期の前方後円墳で、横穴式石室と木棺直葬の2つの主体部を持っています。石室からは須恵器や土師器のほか馬具が3セットも出土しています。



WEB



X (旧 Twitter)



Facebook

はじめに

今回の発掘調査は、京都府立向日が丘支援学校の改築工事に先立って令和5年度に引き続き実施しています。

今回発掘調査した地点は、標高約47mの扇状地上に位置し、長岡京跡と縄文時代から近世までの井ノ内遺跡に含まれます。

長岡京では右京三条四坊八町・九町にあたり、二条大路、西四坊坊間小路が推定されています。

調査概要

発掘調査は7か所の小規模トレンチを設定し、遺構等の残存状況を確認しました。その結果、遺構の残存状態の良い部分については拡張して面的な調査を実施しました。

調査の結果、かく乱や土石流によって壊されている箇所も多いのですが、古墳時代後期の竪穴建物、長岡京期の溝、中世以降の柱穴を多数検出しています。遺物には縄文土器や石斧、須恵器、土師器、瓦、瓦器などがあります。

主要な検出遺構・遺物

発掘調査で軽移出した遺構遺物には中世、長岡京期、古墳時代、縄文時代のものがありますが、成果の大きかった長岡京期と古墳時代について説明します。

長岡京期 主要な遺構として3条の溝を検出しています。溝1は東西方向の溝で二条大路南側溝

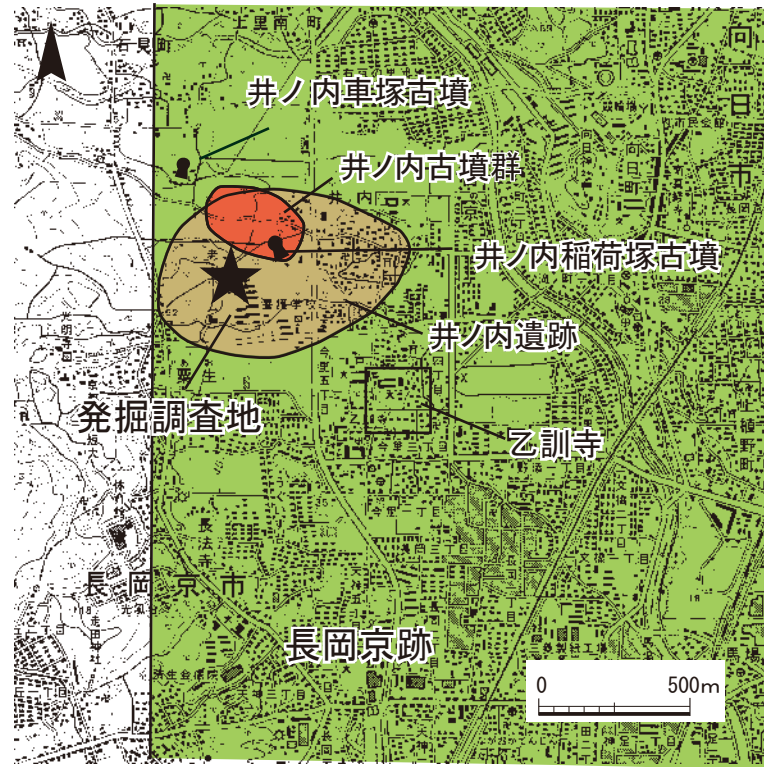


図1 調査地位置図及び周辺遺跡分布図 (国土地理院 京都西南部部 1/25,000)

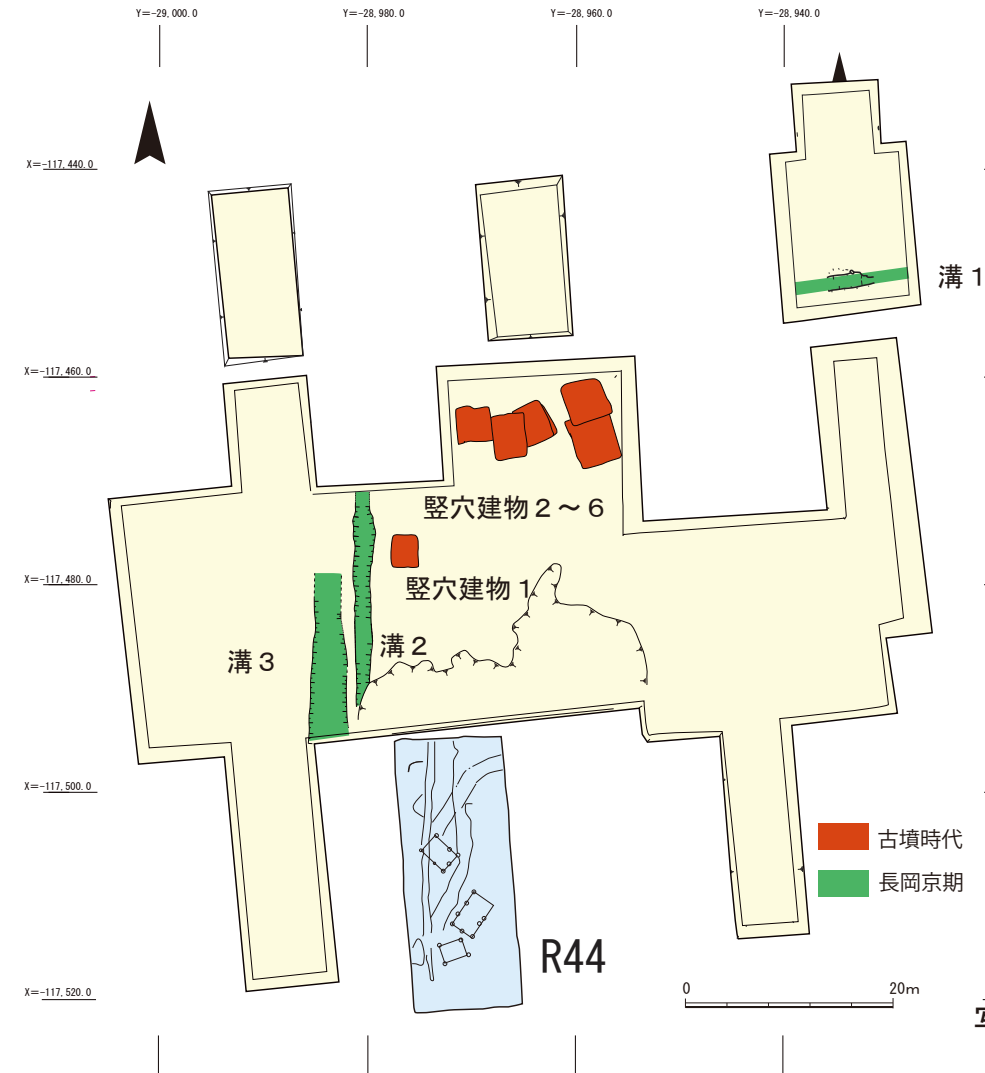


図4 主要な遺構検出状況



写真1 推定二条大路南側溝1 検出状況(西から)



写真2 推定西四坊坊間小路西側溝2 及び宅地内溝3 検出状況(北から)

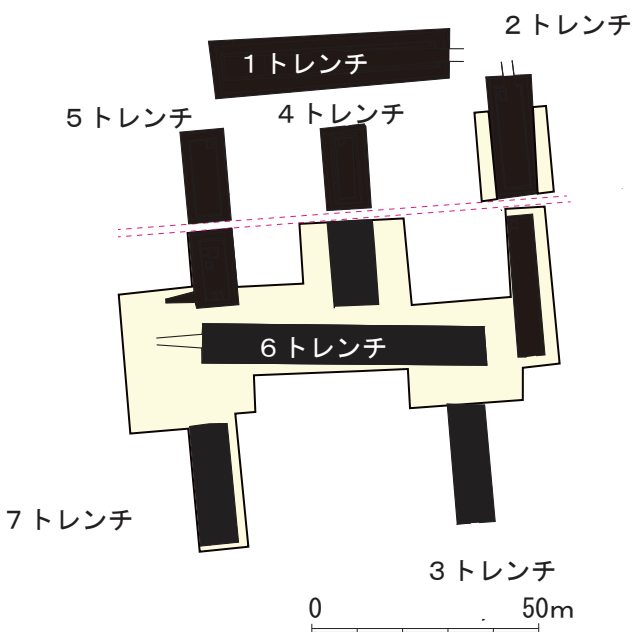


図2 調査トレンチ配置図及び拡張区

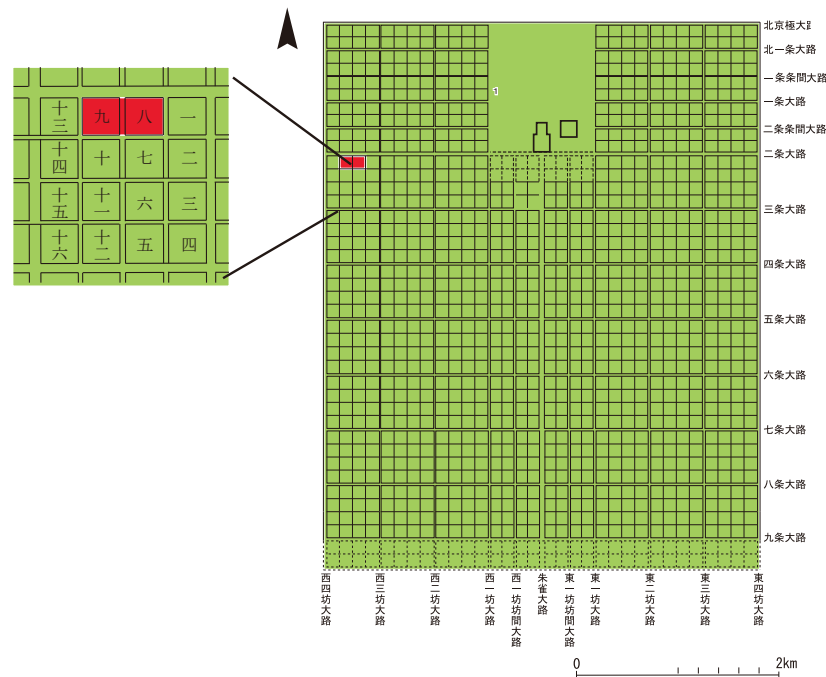


図3 長岡京条坊及び調査地位置図

の位置にあたります。幅約1.3m、深さ約0.8m、検出長約12mを測ります。溝2は西四坊坊間小路の西側溝の位置で検出した南北方向の溝で幅約1.3m、深さ約0.15m、検出長約20mを測ります。溝3は溝2に並行する南北方向の溝で宅地内の溝と考えられます。幅約2.5m、深さ約0.15m、検出長約16mを測ります。

古墳時代 現在6基の竪穴建物を検出しています。いずれも古墳時代後期に造られたものです。それぞれの詳細な時期は不明ですが、おおむね6世紀初頭から中ごろに造られたと考えられます。このほか古墳時代の包含層中から土馬や製塩土器が出土しています。

まとめ

調査地は桓武天皇が造営した長岡京の西辺に位置していますが、10年間しか存在しなかったにもかかわらず、西辺まで条坊が施工されていることがわかりました。

古墳時代の遺構として竪穴建物6基を検出しましたが、ほかの地点でも出土遺物が多く、かまどの痕跡と考えられる焼土も複数確認しました。竪穴建物がかく乱によって無くなっている可能性も高いことから、大規模な集落であったと想定できます。集落内では土馬を用いた祭祀が行われていました。古墳時代の土馬による祭祀は馬の飼育や渡来人との関係が深いことも指摘されています。調査地の北東約100mには、全長46mの前方後円墳である井ノ内稲荷塚古墳が、北東約